

1. 山陰海岸ジオパークと浦富海岸

山陰海岸ジオパークは、日本海形成を物語る地形・地質や、そこにくらす多様な生物、人々の文化・歴史などについて体験・学習できる自然公園で、鳥取県・兵庫県・京都府にまたがる東西約120km、南北最大約30kmの地域を指します。



山陰海岸ジオパークの西側に位置する浦富海岸は、鳥取県東部の岩美町大谷から兵庫県境までの約15kmの海岸線で、複雑に入り組んだ海食地形と入り江に点在する美しい砂浜（ポケットビーチ）が特徴です。とくに、初夏から秋にかけては海中の透明度が高くなり、対馬暖流の影響によって南の暖かい海からやってきた生きものも多く観察されます。このガイドブックでは、主に浦富海岸での調査で観察・記録された生きものを紹介しています。

対馬暖流にのってやってきた魚たち



2. 観察方法と注意点

身近な海辺で楽しく生きもの観察をするには、水中マスクやマリンスーツなどの装備（服装）をしっかりと整えることがまず大事で、危険な生きものについての知識を持つことも大切です。

観察方法

日本海に面する山陰海岸は、潮の満ち引き（干満差）がゆるやかで、生きもの観察がしやすい「潮だまり（タイドプール）」が少ない地域です。このような地域では、水中マスクとスノーケルを使うことで、楽しく海の生きもの観察ができます。

観察時の服装と持ち物

手袋・長そで・長ズボン（レギンス）など、できるかぎり肌を見せない服装（岩場での切り傷を避ける）

水中マスク・スノーケル

ライフジャケット

バケツ
(フタ付きだと便利)

帽子

手網
(柄が短い方が魚を捕まえやすい)

マリンスーツまたは汚れてもよい運動靴
※ビーチサンダルはダメ
(すぐに脱げてしまう、ケガをしやすい)

水中マスクやスノーケルをつけて泳がない場合は、帽子をかぶるなどの熱中症対策が必要。
冷たい飲み物も持参して、こまめに水分を取りましょう!

「水中マスク」と「スノーケル」をつけてみよう!

水中マスクのつけ方のポイント

- ・前髪が水中マスクと顔の間にはさまらないようにしよう(はさまると海水が入ってくる)。
- ・ストラップを調整して、水中マスクと顔がピッタリくっつくようにしよう。



スノーケルのくわえ方のポイント

- ・「あ」「い」「う」で口にくわえる部分(マウスピース)をくわえよう。



口を大きくあける



マウスピースの突き出た部分を軽くかむ(強くかむと切れるので注意)。



くちびるでマウスピースの全体をおおう

海の浅い場所で、①水中マスクに海水が入ってこないか、②スノーケルを通して息ができるかを確認してから、スノーケリングにチャレンジ!

観察シートをつくって、記録しよう!

海の生きものの観察では、観察シートやポケット図鑑ずかんなどを使い、見つけた生きものを記録して名前などを調べてみよう。観察した生きものの特徴やその時に気づいたことを書きとめることで、記憶に残り、さらに興味がわいて楽しくなります。(参考図書P52)

観察シートの例 (印刷用P54)

観察した日: 年 月 日 天気:		
観察場所:		
	名前	とくちょう 色や形、さわった感じなど
かいそう (海藻・海草)		
ウニ・ヒトデなど (棘皮動物)		
かい (貝類)		
ウミウシ・アメフラシ (軟体動物)		
カニ・ヤドカリなど (甲殻類)		
魚 (魚類)		
その他		

危険な生きもの

海の中にはいろいろな危険な生きものもくらしています。危険な生きものを見つけた時には、むやみに近づかず、注意して観察しましょう!

アカクラゲ



クラゲの足(触手)全体に毒針

アンドンクラゲ



ウミケムシ



体の毛(剛毛)に毒針

ゴンズイ



ハオコゼ



オニオコゼ



背びれや胸びれなどのトゲに刺されると毒を注入されるので注意!

アカエイ



尾のトゲに毒

ヒョウモンダコ



かまれると猛毒のテトロドトキシンを注入され、非常に危険

